

作成日：令和元年 12 月 15 日

医療機関：ブルーミントン動物病院（東京都杉並区）

担当獣医師：西村美知子

症例 1

症例カテゴリー：腫瘍・免疫関連疾患

症例名：肥満細胞腫

使用製品：POC 水 60ml/日 1 年 4 ヶ月 ブルーシート併用なし

種類：トイプードル 年齢：15 才 3 ヶ月 体重：2.5kg 性別：メス（避妊済み）

【具体的な症状と経過】

2013 年 5 月に右膝上部の皮膚にできた 2 cm×1 cm ほどの肥満細胞腫の外科的摘出を行っています（グレードⅡ）。

2014 年 7 月には左臀部皮下に再発。左大腿や尾の付け根皮下にも出現するが、その際は丸山ワクチンやオゾン療法、漢方薬などで治療、2016 年 1 月には腫瘍は殆ど消失し安定した。ただ、尾の付け根の物が小さく残り、たまに大きくなったりを繰り返したり、2017 年には左膝皮膚にも腫瘍が出現し、吐き気や嘔吐の症状も伴った。この辺りは他の代替療法で切り抜けたが、同年 11 月頃から口腔内にも出来始め、出来ては無くなり繰り返していた。

2018 年 7 月 P O C 水と出会い、飲用を開始する。シートの併用はなしだが、POC 強アルカリ水（*2）は外用で併用した。

10 月までのところで小康状態だったため、高濃度 POC 水（*1）に変更した。その後は、たまに数ミリの小さい M a s s が口腔内に出来たりしたが、大きくなることはなく、POC 強アルカリ水をかける頻度を高めると縮小傾向は強まった、

また、POC 水飲用前に大きくなってしまった口腔内のものと、尾の付け根の皮下以外の新しく出現してきたものについては、全て消失している。

吐き気や嘔吐も全くなく、元気に 15 歳も迎えている。

【POC 水をご使用頂いた先生のご感想】

肥満細胞腫は再発の場合、抗癌剤が使われることが多いと思いますが、それが功を奏しない子もいると思いますし、副作用で減量や服用中止となることもあると思います。

P O C 療法のうち今回はシートによる温熱療法の併用はしないで治療を行っていますが、それまでの代替療法より状態は安定している感があります。また飲むことと、患部にスプレーするだけで副作用は全くないので、飼い主様は副作用などを心配するストレスもなく、その子の治癒力を信じて続けられるものとなっていると思います。

POC 水のお蔭か、年齢は上がってきていますが、腎機能も悪化しません。季節の変わり目や寒い時期、またストレスが加わった時などに、M a s s ができてくる感がありますが、大きくなり続けることは無く、コントロールできています。治療開始から現状までを踏まえすと、このまま肥満細胞腫はコントロールできそうに思います。

【飼い主様の声】

知人のワンちゃんが肥満細胞腫で亡くなったことを聞くことがありますが、うちの子は 1 回手術で摘出しまし

たがその後何度も再発はしていますが、POC 水を飲むことと POC 強アルカリ水の外用で、大きな症状もなく何年も過ごせています。

小さい腫瘍ができて、ほんの数ミリのもので悪さもしません。お陰様で現在 15 才 3 カ月ですが、元気に普通に食欲旺盛で過ごせており、子犬さん？とまだ言われるくらい若い外見も保っています。

先生からは以前、肥満細胞腫の子で、手術もせず、お薬も使わないで何もしないと決めていたおうちのワンちゃんが、嘔吐が激しく食べられなくなり、やせ細ってしまった話を伺っていました(その子は結局、代替療法を始めて改善して元気に戻ったそうですが)、うちの子も嘔吐が出始めた時期もありましたが、今ではそのような症状も全くなくとても感謝しています。POC 療法を知らないお母さんたちが、情報を得られるようになることを願っています。

(* 1) 2019 年 10 月現在、POC 水は、動物病院用に高濃度タイプを標準化している。

(* 2) POC 水に特別なカルシウムを溶かして強アルカリ性にした水溶液